

ジャンボ渡辺の学 富士山

世界文化遺産としてふさわしい富士山の保全管理のあり方を探るために、3月下旬、ニュージーランドの北島中部にあるトンガリロ国立公園を訪ねました。

この公園は、1990年に世界自然遺産に登録されました。ニュージーランド政府はマオリ族の宗教的、精神的な聖地としての文化的な価値を認めてほしいと要望。世界遺産委員会は新たに「文化的景観」の評価基準を作り、1993年に文化遺産にも指定しました。トンガリロ国立公園

トンガリロ国立公園に学ぶ

保全管理、地域との協働を



渡辺豊博さん

は、世界で最初の「複合遺産」になりました。

トンガリロ国立公園の保護地域は7万6千秒に及びます。約40人のレンジャーが、登山道や山小屋、トイレの維持管理を行っています。ピジターセンターでは、観光客や登山者への情報提供や登山指導、環境教育を行います。政府がNPOと協働し、一括的な責任で保全管理しています。

公園内のナウルホエ山(2914)は富士山に似てい



ます。昔から神なる山として、人の立ち入りが厳しく制限されてきました。富士山の文化的価値と酷似しています。ニュージーランドの環境政策は、自然保護省が環境管

理と自然保全を一元的に担っています。マオリ族の文化を守る組織は、観光業とのバランスを考えながら入山禁止や制限を主張しています。開発と抑制の両立を念頭に、神山としての本質を傷つけないよう、利用をマネジメントしています。

一方、日本では「神の山富士山」という意識が希薄です。感謝と畏敬の念の伝承と教育がおざなりにされてきました。両国の違いを見ると、ニュージーランドの文化的価値に対するプライドを感じます。

トンガリロ国立公園のレンジャーと記念撮影する筆者(中央)。後方右はナウルホエ山―筆者提供

す。ニュージーランドには14の国立公園があります。自然環境を保全管理するガイドラインや運営管理計画書は、10年に一度改訂されます。計画の決定には、地域の住民やコミニティーの合意が法律で決められています。提案された意見は自然保護省がまとめ、改定時に反映させなくてはなりません。

富士山では役所主導の施策決定が常態化しています。民意の反映は希薄です。今後、地域住民の意見を聞いて、登山者集中など過剰利用への対策や信仰など文化的意味を考えた管理計画が必要です。富士山に登らなくても、文化的価値を築き上げる仕組み作りも必要だと思えます。

(わたなべ・とよひろ) 都留文科大教授